

# ロジック・モデルの 作成ワークショップ



文部科学省

文部科学省 科学技術・学術政策局  
企画評価課 評価・研究開発法人支援室  
研究開発評価推進検討会

## ファシリテータ

## 文部科学省 研究開発評価推進検討会委員

- 安藤 二香（政策研究大学院大学）
- 遠藤 悟（日本学術振興会）
- 栗本 英和（名古屋大学）
- 小湊 卓夫（九州大学）
- 鳶田 敏行（茨城大学）
- 花田 晶公（海洋研究開発機構）
- 林 隆之（政策研究大学院大学）
- 丸山 亮介（理化学研究所）

## 0. ワークショップの進め方

- (1) 牽引役（リーダー）を決めます。
- (2) 各グループに模造紙，付箋紙，ペンが置いてありますので，確認します。
- (3) 付箋紙には，1つの事柄を書きます。
- (4) 模造紙の上に付箋紙を置き，ロジック（原因と結果との相互連鎖）が分かるように配置します。
- (5) グループ作業によって，ロジック・モデルを完成することが成果物です。
- (6) 質問等は各グループ担当のファシリテータにお願いします。

# 1. 本ワークショップで扱う範囲

	投入資源	活動内容	活動結果	直接的・短期的成果	間接的・最終的成果
各段階での内容	Step③	Step②	Step①	Back-Casting 事前に設定	事前に設定
適切な指標設定		Step⑤ 指標を考慮しながら 余力があれば指標	余力があれば 指標	余力があれば 指標	

Step④ 因果の連鎖を点検

Step⑤ 指標を考慮しながら紐付け

- ①②③：「直接的成果」を生む「活動結果」から「活動内容」，…という逆方向に，付箋を模造紙に配置します。
- ④：配置後，順方向に1次原因→1次結果（2次原因）→2次結果…という「因果の連鎖」を検証・点検します。
- ⑤：因果の整合性が確保できるよう，付箋間を紐付けます。

## 2. 間接的・最終的な成果 [intermediate/final outcomes]

○波及効果（impact）など，研究開発の企画立案者が想定する／実施推進者が意図する範囲（期間や枠組）を超えて，多様な享受者にもたらされる間接的・最終的な効果・効用です。

◎今回は事前に指定します。

研究開発や教育研究の機関として，

「研究開発成果の最大化」

○指標例は，関連分野の研究者・技術者の増加，企業の新規参入，新たな雇用の創出，生活や文化等の市民社会への影響，教育・学修方法や制度の改善など

### 3. 直接的・短期的な成果 [immediate outcomes]

○研究開発の企画立案者や実施推進者が意図する範囲内の、想定する関係者にもたらされる直接的・短期的な効果・効用です。

◎今回は事前に指定します。独自案④も可能です。

①挑戦的な(Challenging)研究による飛躍的進歩、

②学際・融合領域・領域間連携研究による課題解決、

③次世代を担う若手研究者・技術者の育成・支援、

④参加者が共通に関心をもつ研究開発成果など

※複数の直接的・短期的な成果が、間接的・最終的な成果につながる場合は、矢印で結びます。

※適切な指標があればメモし、検証時に利用します。

○指標例は、論文採択数・被引用数、特許数のほかに、製品化や社会実装による経済的価値や社会的価値など

## 4. 活動結果 [outputs]

○目的や目標を達成するために企画立案した，実施計画等に対応する取組や活動から生じる結果や，それらの活動結果の集合体です。

◎成果に結実する，取組や活動の結果を列挙します。

※複数の活動結果が，直接的・短期的な成果につながる場合は，その間を矢印で結びます。

○指標例は，投稿論文数，特許出願数，規格・政策等の提案数や企画数，設計図面数など

※測定可能な指標は，実施計画等に基づく活動が適切に実行できたか否かの判断材料にもなります。

※判断の目安となる指標(KGI)があればメモします。

## 5. 活動内容（実施計画等） [activities]

- 実りある活動結果を導く／活動結果が得られるには、どのような活動内容（実施計画等）であれば実現できるのか、実行する一連の行動です。
- ◎活動結果に直結するような、具体的な取組や活動を列挙し、記載します。
- ※密接に相互連動する取組や活動等は、それらを大括にし、類型化することで、分かりやすい図になります。
- ※複数の活動内容によって、活動結果が生み出される場合は、その間を矢印で結びます。
- ※進捗の目安となる指標(KPI)があればメモします。

## 6. 投入資源 [inputs]

○実施計画を着実に推進するための、投入可能な経営資源です。

◎計画の遂行に必要な投入資源を全て書き出します。

※投入資源は通常、複数に分類できます。

- 人的資源 : 人財, 専門職など
- 物的資源 : 設備や施設, 場所など
- 情動的資源 : ノウハウ, 知財など
- 財政的資源 : 予算, 資金など
- 時間的資源 : 所要時間, 工程数など

## 7. 指標の設定：方法

○進捗の程度，結果の評価・評定，成果の査定を行うために必要な，目安となる物差です。

◎「活動内容（実施計画等）」，「活動結果」，「直接的・短期的な成果」で表記した事項を表象する，適切で計測可能な指標を考えます。

※例えば，「直接的な成果を上げるためには，どんな物差（指標）があると，可視化できるか？」という質問形式を使って精査します。

※定量的に表現されるものだけが指標ではありません。非定量的なものも含みます。

◎因果関係の矛盾（論理の飛躍等）が見つければ，ロジック・モデルを修正します。

## 7. 指標の設定：種類

直接的な指標	間接的(代理的)な指標
<p>目標達成や進捗状況を直接、計測・把握し、判断できるもの</p> <p>例、物理量、各種試験の結果</p>	<p>目標達成や進捗状況を代替的なものを介し、間接的に判断できるもの</p> <p>例、満足度等のアンケート調査</p>

◎直接的で定量的な指標，なければ定性的な指標を考えます。

※通常，数量と比率の双方を用意します。

◎間接的・代理的な指標は，計測対象との論理的な因果関係を念頭において設定します。

※計測可能性，妥当性，信頼性等を検証します。

## 8. ロジック・モデルの相互点検

◎ロジック・モデル全体の因果関係の整合性を、客観的視点から最終点検します。

- 班単位で簡単な概要説明を行います。
- 別の班が質問やコメントを出します。

※相互点検を通して、もし矛盾があれば見直しもを行います。

※因果関係が論理的に、矛盾なく展開され、それが相手に伝わるように構造化されていることがポイントです。

※関連している事項間を矢印で結びます。

# （附録）ロジック・モデルの読み方・見方

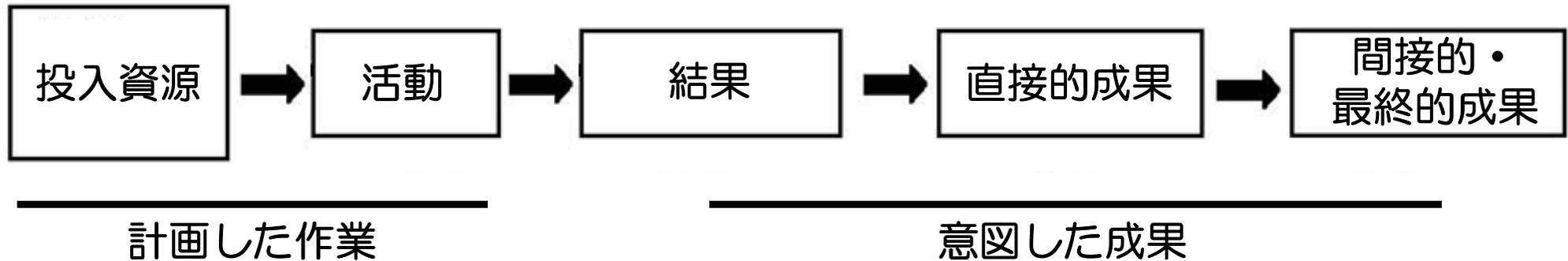
プログラム運営には何らかの資源が必要になる。

もし、それらの資源を獲得できれば、計画した活動遂行に利用できる。

もし、計画した活動が実施されれば、予想した量の産物やサービスの提供が可能になる。

もし、予想した程度まで活動が実施されれば、参加者各自は何らかの恩恵を得る。

もし、参加者が恩恵を得れば、組織や地域や制度に何らかの変化が起こることが予想される。



# ロジック・モデル例：WKKFのミシガン包括的地域保健モデル

※「道筋」を描くためには対象事業の前提となる何らかの、メンタル・モデルが必要になります。

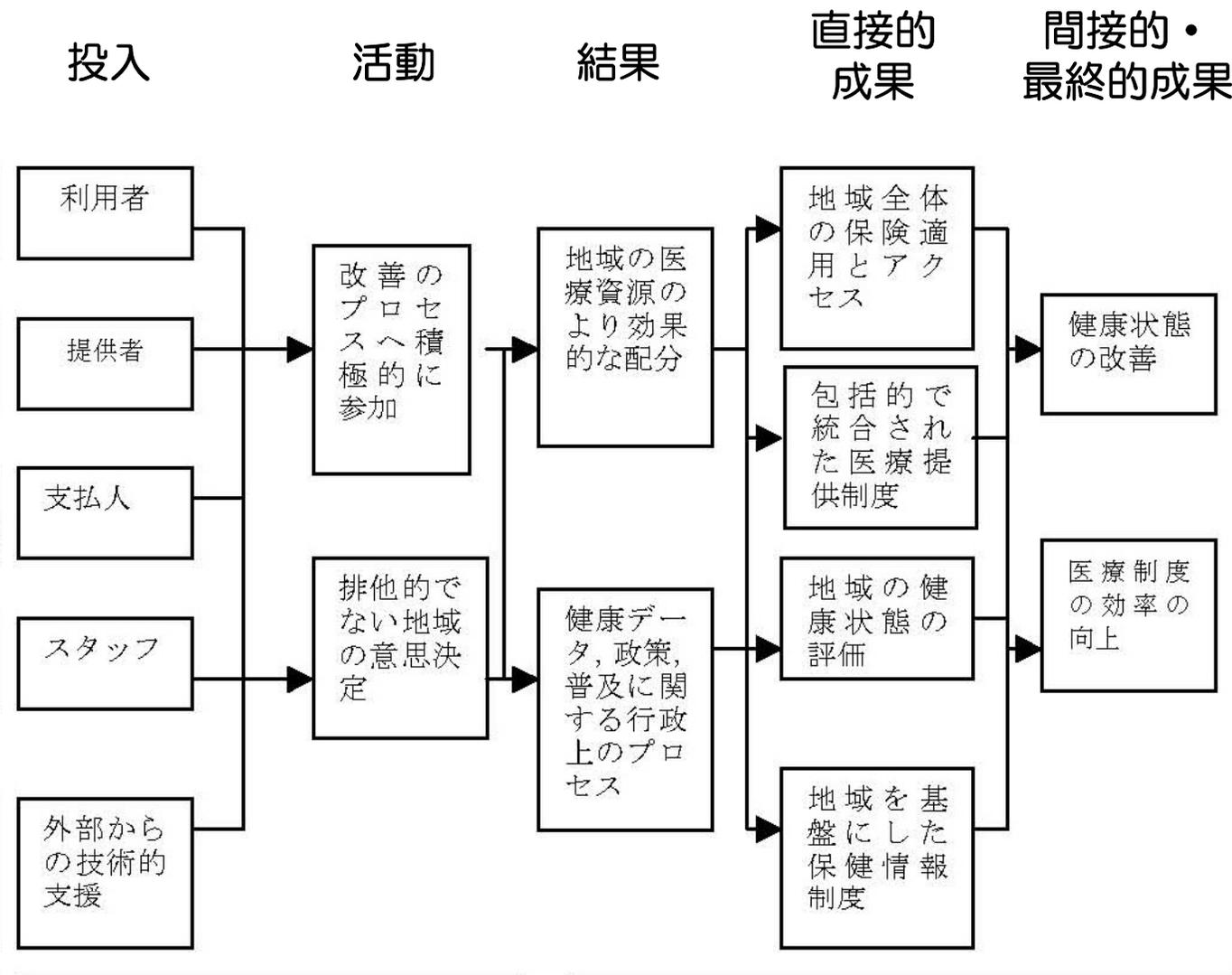
保健は地域の問題であり、地域は医療の問題解決のためパートナーシップを結ぶ。

地域は地元、州、国家レベルで一般政策と市場政策に影響力を持ち、それらの政策を提起することができる。

地域と提携している外部の関係者は変化をもたらす役割を果たすことができる。

予算と奨励策を一次医療と予防策に転換すれば健康状態の改善をもたらす。

健康状態と保健制度に関する情報は情報公開に基づく意思決定に欠かせない。



計画した作業

意図した成果